

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 (第25期・第2回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和3年3月31日(水) 10:00~12:00

2. 会 場 遠隔会議

(主催会場：高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所)

出席者 伊藤由佳里、大島まり、大場みち子、佐々木葉、関根千津、玉田薫、中川聡子、野尻美保子、堀 利栄、伊藤貴之、川口慎介、斎藤毅、須山章子、千住智信、渡辺美代子

1. 伊藤(由佳里)・関根・中川・川口・斎藤・渡辺の報告に基づいて、理工系ダイバーシティの問題整理を行なった。

女性研究者の育成と支援

男性教員のダイバーシティ活動への参加や女性同士で意見交換ができる環境、効率の良いジェンダー教育の方法等について議論した。

企業・大学で女性比率が増えない背景について検討を行なった。女性に対する偏見の問題について、今も意思決定に参加できない、あるいは、少数しか参加していない大学や企業が多いこと、また職場外で非公式な場所で決定が進むといった問題が指摘された。

資金採択と女性比率

- ACT-X、創発 ムーンショットミレニアなど新しい資金には女性応募が増え、採択もふえた。

採択を決める委員会の女性比率を向上させ、30%を越えている。横断的な観点(SDGなど)がこれからの科学には重要であるという指摘があった。また、ダイバーシティについてのさらなる統計整備が必要である。

理系選択についての親や固定的な意識の問題が重要となっている。男子校・女子校での進路指導の影響が取り上げられた。また、高校生に向けた、理系選択支援イベントのあり方について議論された。

分野によらず女性に対する無意識の偏見、ハラスメントなどの問題は解決されるべきであり、女子が特に少ない理工系の分野で改善のための努力が必要である。

2. その他 今後さらに2回、委員による発表を行い、論点整理を行う。